

第2回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和3年9月15日（水）10時～15時 参加者：61名（うち市町村等から44名）
研修方法：全日程 Zoom によるオンライン研修

本研修では初めて、全日程 Zoom を使ったのオンライン研修を実施しました。参加や操作に慣れていない方も多い中、「コロナ禍での家庭教育を応援しよう」というテーマのもと、ベビーテックについてや、北秋田市家庭教育支援チームの活動等を知り、コロナ禍で配慮すべきこと、工夫できることを見出すことができました。

【午前の部 講話】

株式会社パパスマイルの代表取締役**永田 哲也**氏より、「ベビーテックで保護者や保育者に余裕を」と題し、講話をいただきました。ベビーテックは、Baby（赤ちゃん）とTech（テクノロジー）を組み合わせた造語で、育児と保育に携わるすべての人を支える IT サービスと製品の総称です。ベビーテックが効果的な分野としては、「子どもの健康と安全」「母体と胎児の健康と安全」「赤ちゃんのころ」「育児活動の支援」「学びと遊び」「保護者の生活環境」と多岐にわたります。中でも、分娩監視装置 iCTG は、胎児の心拍と妊婦さんのお腹の張りを自宅で測ることができる超小型・モバイルデバイスで、産科でしか利用できなかった装置が、いつでもどこでも妊婦さん自身で計測可能となりました。また、職場体験をデジタル版で体験できるアプリ等、BabyTech Award Japan で受賞した数多くの商品やサービスも紹介していただきました。このように、ICT/IoT の活用で育児をより安全安心にすること、任せられるところは段階的にテクノロジーに任せ、手をかけたいところに力をいれられる育児につながっていることを知ることができました。最後に、近年の家庭教育についての相談事、悩み事の利用は「①匿名②いつでも③仲間」の特徴をもつ SNS が主流であることについてのまとめがありました。そのメリットとデメリットをふまえ、保護者の気持ちをキャッチしたり聞いたりできる手法になり得るという、示唆を与えていただきました。



【午後の部 ①講話 ②協議（ブレイクアウトルーム）】

北秋田市家庭教育支援チーム「にこっと」の皆さんが講師を務め、「親子が同じ気持ちで同じ方向で」と題して、活動の実践紹介をしてくれました。にこっとでは、「①当センターにおける研修→②他団体等との活動を通じた学び→③『目指すものは何か』の話し合い→④工夫と実践」といった活動の連続を大切にしているそうです。②では、北秋田市における親子を対象とした活動に積極的に参加し、接し方や働きかけ方などについて学びます。その後、親が求めるものをチーム内で分析することにより、にこっとが目指す方向を確認しています。北欧の杜公園で行った野外活動は、親子が同じ空間で、ともに喜びを共有できた例といえるでしょう。この実践をヒントに、地域活動を避けがちな保護者にいかに関心をもってもらうか、にこっとと会員の強みを生かした連携・協働を期待しています。



協議では、異なる市町村関係者3、4名がグループになり、「コロナ禍における家庭教育支援の工夫と配慮」というテーマで話し合いました。話題の多くは SNS の活用やオンライン講座、切れ目のない支援の在り方についてでした。不安を抱える保護者にとって、他者の声を聞くことは、自分から話したくなる、元気が出るもとなると想像できます。その活用と導入方法を具体的に検討し、今後の糧にしていました。

【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・子どもを取り巻く様々なステージにおいて、保護者だけでなく関わる全ての人の助けとなるテクノロジーが発展していることに驚き、感動した。こうした新しい取組の情報を得ることで、保護者に対する情報提供の引き出しを増やすことができた。
- ・研修や他団体との交流で吸収したものから、チームの中で一貫した方向性を定めるという姿勢がとても参考になった。にこっとの皆さんの積極性や行動力、論理的な考え方が本当にすごいと思った。まねしたい。
- ・午前と午後の講話、それぞれの活動が上手につながられると、ITと人のよさがそれぞれ生きると考えた。
- ・初Zoomチャレンジ、できるかどうか始まるまで不安だったが何とかあった。自分の行動力をあらためて知った。